

# 『本の翼』

京都府京都市 三日月ユキ

子どもの頃 クラスに居場所はなかった

チャイムと共にいじめっ子の目を避け

全速力で教室のドアを飛び出して

図書館の書架の間へ駆け込んだ

本たちは ページの翼を広げて

親鳥のように わたしを守った

学生の頃 生きている意味を探した

相変わらず居場所はなくして

自分などが生きていていいのか悩んだ

図書館の書架の間をまよい歩いた

本たちは 国も時代も超える翼となって

たくさんの人の生き様をわたしに見せた

子どもが生まれて 命の熱さを知った

ほかほか出来立ての柔らかい体と耳と手

言葉をちようだい 世界を教えて

図書館の書架から一緒に絵本を選んだ

本たちは 翼のついた可愛い扉になって

子どもたちの黒い瞳を今日も宝石にする

海岸線の向こうの国では

学ぶ権利を奪われた少女たちのために

図書館が最後の砦となっているとか

ねえ本の翼よ

人は誰でも飛べるのだと どうか教えて

この地球の隅々まで どうか